

「具体例から学ぶ 多様体」(第1版1刷) 正誤表
(2017年5月31日版)

場所	誤	正
p. 6, 定理 1.7 (3)	$d(a, a) \geq 0$	$d(a, b) \geq 0$
p. 7, 定義 1.9 (D3)	$d(a, a) \geq 0$	$d(a, b) \geq 0$
p. 8, 定理 1.15 (3)	$(O_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$	$\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$
p. 9, 定義 1.16 (O3)	$(O_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$	$\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$
p. 10, 定理 1.19 (3), 脚注	$(A_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$	$\{A_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$
p. 13, 定理 1.24 (3)	$(O_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$	$\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$
p. 35, 下から 3 行目	R は	\mathbb{R} は
p. 36, 下から 2 行目	S^1	l
p. 43, 下から 4 行目~	$\{0\}$	$\{a\}$
p. 44, 上から 3 行目	$\{0\}$	$\{a\}$
p. 52, 問題 3.1 (1)	$\{U_1^+ \cup U_1^- \cup U_2^+\}$	$(U_1^+ \cup U_1^- \cup U_2^+)$
p. 59, 上から 5 行目	より, $\text{Aff}(\mathbb{R}^n)$	より, $\text{Aff}(\mathbb{R}^n)$
p. 69, (4.64) 式	$(x \ y)$	(x, y)
p. 69, (4.64) 式	$(d \ e)$	(d, e)
p. 76, 上から 5 行目	連結開集合	空でない連結開集合
p. 78, 上から 7 行目	f, g	f_1, f_2, \dots, f_n
p. 78, (5.18) 式	$f(t), g(t)$	$f_1(t), f_2(t), \dots, f_n(t)$
p. 78, 上から 10 行目	f, g	f_1, f_2, \dots, f_n
p. 78, (5.19) 式	$f'(t_0), g'(t_0)$	$f'_1(t_0), f'_2(t_0), \dots, f'_n(t_0)$
p. 78, 下から 4 行目	における	における
p. 84, 例題 5.12 (1)	$= 0$	$= \mathbf{0}$
p. 91, 上から 4 行目	直交行列	直交群
p. 96, 上から 7 行目	ただし, $n \in \mathbf{N}$ である.	$n \in \mathbf{N}$ とし,
p. 103, 上から 3 行目	存在し,	与えられ,
p. 105, 上から 7 行目	\curvearrowright 作用する	に作用する
p. 108, 問題 6.1 (1)	$\left\{ \bigcup_{i=1}^{n+1} U_i^+ \cup \bigcup_{i=1}^n U_i^- \right\}$	$\left(\bigcup_{i=1}^{n+1} U_i^+ \cup \bigcup_{i=1}^n U_i^- \right)$
p. 111, (7.3) 式	$(x \ y \ z)$	(x, y, z)
p. 125, 上から 3 行目	より	により
p. 131, 下から 8 行目	$(O_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$	$\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$
p. 137, 上から 9 行目	微分多様体	多様体
p. 151, (9.3) 式	0	$\mathbf{0}$
p. 156, (9.17) 式	0	$\mathbf{0}$
p. 163, 下から 7 行目	v_γ	\mathbf{v}_γ
p. 186, 上から 6 行目	実対称	対称
p. 199, (11.23) 式	$\mathbf{v}_{\sigma(k+1)} \cdots$	$\mathbf{v}_{\sigma(k+1)}, \dots$
p. 200, 上から 9 行目	定理 11.3	定理 11.13
p. 205, 下から 3 行目	$\mathbf{u} = 0$	$\mathbf{u} = \mathbf{0}$
p. 207, (11.39) 式	$\omega(\mathbf{v}, \mathbf{a}) = \omega(\mathbf{v}, \mathbf{b})$	$\omega(\mathbf{v}, \mathbf{a}_1) = \omega(\mathbf{v}, \mathbf{b}_1)$
p. 220, (12.26) 式	$w_{j'}$	w'_j
p. 220, (12.27) 式	$\sum_{k,l=1}^n \frac{\partial^2 K_j}{\partial w'_k \partial \bar{w}'_l} = \sum_{k,l=1}^n \frac{\partial^2 K_{j'}}{\partial w'_k \partial \bar{w}'_l}$	$\frac{\partial^2 K_j}{\partial w'_k \partial \bar{w}'_l} = \frac{\partial^2 K_{j'}}{\partial w'_k \partial \bar{w}'_l}$
p. 232, 定義 12.19 (U2)	$\in U_\alpha$	$\subset U_\alpha$
p. 242, 3.1 (1)	$\{U_1^+ \cup U_1^- \cup U_2^+\}$	$(U_1^+ \cup U_1^- \cup U_2^+)$
p. 245, 下から 9 行目	$\left\{ \bigcup_{i=1}^{n+1} U_i^+ \cup \bigcup_{i=1}^n U_i^- \right\}$	$\left(\bigcup_{i=1}^{n+1} U_i^+ \cup \bigcup_{i=1}^n U_i^- \right)$
p. 249, 上から 9 行目	$x =$	$i =$
p. 253, 下から 1 行目	$\frac{d(f_S^{-1} \circ \varphi \circ f_N)}{dt}$	$\frac{d(f_S^{-1} \circ \varphi \circ f_N)}{dt} \frac{d}{dt}$
p. 255, 上から 3 行目	$(n+n)$ 行 $\times i$	$(n+n)$ 行 $\times i$

その他

- p. 8, 定理 1.15 (3) の $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$ に対する脚注として次を加える: 集合族 $\{O_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$ を $(O_\lambda)_{\lambda \in \Lambda}$ と表すこともある.
- p. 44, 【解】 (2): 冒頭に次を加える: 背理法により示す. f が単射であると仮定する.
- p. 70, 図 4.6 および p. 74, 図 5.1 の漸近線はもっと双曲線に漸近しているように描いた方がよい.
- p. 184, 定理 10.10: p. 224, 定義 12.8 に合わせ, (1), (2) の末尾にそれぞれ (線形性), (交代性) を加える.
- p. 187, 上から 10 行目: 波線部分はピリオドの手前までとする.
- p. 207, (11.43) 式, p. 208, (11.44), (11.45), (11.46) 式: d を削除する.
- p. 231, 図 12.2: 局所座標系が元の位置に戻ってきたときに向きが始めのものとは異なるように図を修正する.
- p. 244, 下から 3 行目: ピリオドを削除する.
- p. 248, 下から 4 行目: ピリオドを削除する.
- p. 249, (*) 式: ピリオドを削除する.